

NASUSHIOBARA Newsletter

広報なすしおばら

8 / 5

July 2018 No.327

那須水害から

特集
防災

20
年

那須水害



1 2 余笹川に架かる寺子橋。一部が流され通行不能に。水位の上昇により橋の上には流木が。
3 救助された人の様子。栃木県、茨城県、群馬県の防災ヘリコプターが活躍した。 4 避難所(寺子小学校)を慰問し、被災者を励ます小淵総理大臣(当時)。政府はその後、激甚災害と認定し復旧事業への支援を行った。 5 床上浸水の被害を受けた家屋。壁についた跡が当時の水位を物語る。 6 災害ごみを撤去する地域住民やボランティアの人たち。多数の人たちの協力で復旧に向け取り組んだ。

当時の主な状況

那須水害経過、主な被害

- 8月27日 旧黒磯市・旧塩原町災害対策本部設置 余笹川決壊
- 8月30日 旧西那須野町災害対策本部設置
- 8月27日～30日 複数の地区に避難勧告、避難所開設

避難所開設状況と避難者数 ※それぞれ最大時。

避難所数	20か所
避難者数	1,971人

人的被害

死者	1人
----	----

住家被害

全壊	10棟
床上浸水	113棟
床下浸水	792棟

ボランティアの活動

8月30日～9月7日の間、ボランティア活動に2,000人超が参加。被災者住居の片付けや救援物資の配布、避難所支援などの活動に従事し、災害復旧の大きな力となった。

消防団の活動

8月27日～9月15日の間、延べ9,374人の消防団員が災害対応。多数の被災者を救助したほか、避難誘導、ポンプ車による排水作業、土のう積みなどに尽力した。

自衛隊の活動

8月27日～9月3日の間、644人の陸上自衛官が派遣。旧黒磯市において避難誘導やヘリなどでの捜索・救助、流木除去作業や氾濫河川の補修作業など、多方面での救援活動を行った。



先月、西日本各地に甚大な被害を与えた、西日本豪雨など、私たちの生活を脅かす災害はいつどこで起きるか分からない。
本市においても、平成10年8月26日から31日にかけて、記録的な大雨に見舞われた。この豪雨により多数の家屋が流出、倒壊、床上浸水被害、余笹川と熊川は決壊するなどの甚大な被害を受けた。
この未曾有の大災害、那須水害から今年で節目の20年。当時の被害状況などを振り返る。

倒壊する民家、流される橋 那須水害がもたらした被害

当時、那須地域を襲った大雨は、27日の日雨量で608ミリ、26日から31日までの総雨量は1254ミリ、年間雨量の7割が6日間に降るとてもない集中豪雨でした。

本市では、特に黒磯地区での被害が大きく、那珂川や蛇尾川が危険水域に達し、余笹川と熊川が決壊するなど、最大約2千人もの人たちが避難所生活を強いられました。

この、尊い命を奪い、家屋や橋梁、道路、家畜や農地にも大きな被害を与えた私たちがこれまで経験したことのない記録的な大災害は、テレビの中の出来事ではなく、皆さんの住むこの地で、実際に起きたことなのです。

復旧の裏側には

壊滅的な被害を受けた被災地の復旧には、多くの人たちの支援がありました。

栃木県はもとより、茨城県、群馬県からの防災ヘリの出動や自衛隊の派遣。消防団の不眠不休で昼夜にわたる献身的な水防活動。後片付けや清掃作業には、高校生をはじめとした多くのボランティアの皆さんの応援。また、災害発生と同時に全国各地からの心温まるお見舞いと多くの救援物資などが集まりました。

当時この大災害をどう乗り越え、今、私たちは何をしなければならぬのか、改めて考えていきましょう。

那須水害20周年シンポジウム

那須水害を振り返る講演やパネルディスカッションを行います。この機会に、水害のおそろしさと川の多様性を再認識して、地域と河川の関わり方について考えてみませんか。

- ▶とき 8月25日(土) 午後1時～3時30分
- ▶ところ 那須町文化センター (那須町大字寺子乙2567-10)
- ▶参加費 無料(申込不要)
- ▶問い合わせ 余笹川流域連携ネットワーク事務局 (福田) ☎090-8726-8318

災害時協力井戸を募集しています

地震などの災害により長期間断水すると水の確保が難しく、家庭で使う生活用水は不足すると予想されます。「災害時協力井戸登録制度」は、事前に登録してある井戸を活用して、災害時の生活用水を確保するための制度です。井戸所有者の皆さんの協力をお願いします。

▶問い合わせ
本総務課 ☎0287(62)7150



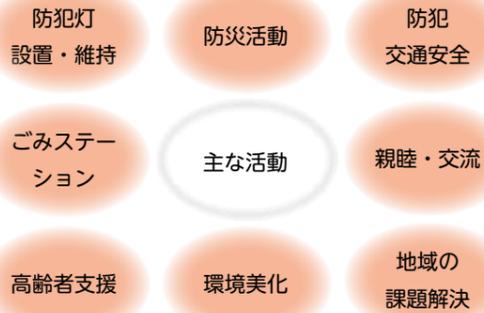
安全安心に生活するために

自治会に加入しよう！

自治会は皆さんに一番身近な自治組織です。

いざという時に身近に頼りになる人がいますか？
自分の住むまちをもっと良くしていきませんか？

安心安全に生活をし、もっと住みやすい地域にしていけるために自治会に加入しましょう！！



▶問い合わせ
市民協働推進課 ☎0287(62)7151

当時の自治会長に聞く 水害を振り返って・・・

当時、消防団の人が鳴らしてくれたサイレンで火災か何かかと思えば外に出ると、今まで見たことのない水量の余笹川が目に入りました。

農地への被害も深刻で、収穫を前にした水稻はなぎ倒され、余笹川からあふれる濁流に乗ったゴロゴロとした石によって、田んぼが河原になってしまいました。あの災害が乗り越えられたのは、地域の人の助け合いがあったからこそです。



那須水害の状況を語る
当時の自治会長 高久耕平氏



地域の人やボランティアの人など、力を合わせて災害ごみの撤去を行った



多くの人が協力し、復旧・復興に取り組んだ

用の飲料水などが備蓄されている。各家庭でもこの意識の高まりは見られ、「この家でも2、3日分の非常食などはあるのでは」とのこと。

一方で、今も地域のつながりは強いが高齢化が進んでおり、将来への不安も垣間見えた。石田坂・赤沼地区に限らず、自治会の人不足、高齢化は多くの地域の課題だ。「同じ地域の中に住んでいても、名前も顔も分からないと何かあった時に困ると思う。若い人に地域のつながりの大切さが伝わり、少しでも地域活動に顔を出してもらっただけでお互いを認識できる。そうやっていけばいいですね」と高柳さん。いつ起きるか分



石田坂公民館にある備蓄品の数々。地域の防災拠点としての役割を担っている

からないその時のためにも、日ごろの地域のつながりを大切にしたい。

災害を乗り越えた 地域の力



本市の中で、那須水害による被害が最も大きかった余笹川沿岸の石田坂・赤沼地区。深刻な被害を受けたこの地区の人たちは、那須水害にどう向き合い、どう乗り越えたのか。当時の石田坂・赤沼自治会長 高久耕平氏と、現在の自治会長 高柳秀樹氏に話を聞いた。

早朝に響く川からの「異音」

「川の音が違う」と異変を感じた高柳さん。余笹川を見ると「ガランガランガラン」と音が響き、濁流に乗って大きな石が流れていたという。

当時、石田坂・赤沼地区の被害は深刻で、寺子橋が一部流出。家屋などには大量の土砂を含んだ河水が流れ込み、急激な水位の上昇により一人の尊い命が奪われた。飼っていた牛の大半が死んだり、流されたりしてしまっただけでなく、梨園を営む高柳さんも自宅が床上60、80cmの浸水、梨の木の一部が流されるなどの被害を受けた。

地域での「助け合い」

被災した時に行政の救助を受けるまでの間、重要なのが「減災」への取り組み。石田坂・赤沼地区では、地元の消防団の人たちがサイレンを鳴らして沿岸の住民に避難を促したり、土のうを作ったりしたほか、交通整理も行った。

「この地区は皆若いころ消防団に入っていた人ばかりだったから、誰でもサイレンが鳴らされたし、土のうも作れた」と高柳さん。避難指示なども日ごろの地域のつながり 덕분에誰が住んでいるか分かっているからの確に行うことができたそう。被

災して一番大変だったのが家屋へ流入した災害ごみの撤去。これらの作業も地域の人やボランティアの人で行われた。

消防団などの地域活動の経験と、比較的被害の少なかった地区の人が率先して動き助けた結果、災害を乗り越えた石田坂・赤沼地区の皆さん。日ごろの地域のつながりの大切さを再認識した出来事となった。

あの経験を生かして

那須水害後、地域の防災意識は「非常に高くなった」という。現在、石田坂公民館には、当時はなかった発電機やヘルメット、懐中電灯、非常



流された寺子橋跡を指さす 石田坂・赤沼自治会長 高柳秀樹氏

消防団員・機能別消防団員

を募集しています

《消防団員》～自分たちのまちは自分たちで守る～

本業を持ちながら、地域の安全と安心を守るために自ら参加し活動する消防団。平常時は、消防操法の訓練や機械器具の点検、操法競技会などを行い、地域の人と親交を深める場にもなっています。

▶主な職務

- ①火災発生時における消火活動 ②大規模災害発生時における災害防御活動・災害警戒活動 ③平常時の年間行事や訓練 など

《機能別消防団員》～昼間の防災力の確保～

元消防吏員や消防団員だった人で、活動できる消防団員が不足しがちな昼間の時間帯の消防活動を補完する機能別消防団員。地域における消防防災力の確保を図ることを目的としており、消防団における年間行事や訓練などには参加しません。

▶主な職務

- ①昼間の火災発生時における消火活動 ②大規模災害発生時における災害防御活動・災害警戒活動 など



▶問い合わせ

本総務課 ☎0287(62)7150



でもなくなってしまったが、地元の建設業者に協力を依頼して砂を分けてもらい、何とか土のうを作ることができた」といい、これも日ごろの付き合いがあったからこそその臨機応変な対応だった。結局この日は一睡もせずに活動を行い、翌日以降は被害状況の調査や行方不明者の捜索、災害ごみの片付けなど地域のために尽力したという。

水害で尊い命が犠牲となったことに触れ、大野団長は「何とかできなかったのかと悔やむばかり」と話す一方、「あれだけの大きな災害の中、消防団員は一人のけが人もいなかった。日ごろの訓練の成果が出たのかなと思っている」とも。

那須水害の経験から「災害にあった際は、地域の人たちと協力して乗り越えることが大切。那須水害の経験を風化させることなく、いざというときに備えて防災力を強化していきたい」と意気込む大野団長。近年は、女性消防団員が活躍していたり、機能別消防団員を取り入れ消防団員の確保に努めているほか、消防団協力事業所の導入により更なる防災力の強化が図られている。

豊富な経験と確かな技術を持ち合わせた消防団がこのまちにはいる。有事の際は、消防団を中心とした地域の防災力にかかっているのだ。

平成10年8月27日、班長になったばかりの大野団長は先輩の消防団員から連絡を受け、自宅のある野間地区から寺子橋に向かったという。上流から流れてきた流木や家屋の瓦礫が寺子橋に引っかかり流れをせき止めた結果、河川は氾濫。橋が渡れなかったため、黒羽方面から迂回し石田坂地区で被害状況の調査へ。大野団長も土のうを作り、止水活動などをした後、野間地区へ戻り活動することになった。野間地区でも小川の氾濫や家屋・牛舎への浸水、道路も膝ぐらまで冠水するなどの被害があり「地域の人たちと協力して土のうを作り、一人暮らしの高齢者のお宅など助けを必要としている人たちのところに行き、土のう積みなどをした」と振り返る大野団長。

「土のうを作るための砂が市役所

地域を守る消防団

消防団は火災時の消火活動はもとより、災害時における献身的な救助活動や避難誘導活動などのひとつひとつが被災者の心の支えとなる。今回は地域を守るためになくはならない存在である消防団について、那須塩原市消防団の大野勝弘団長に話を聞いた。

地域を守る

消防団協力事業所を募集しています



消防団員の約7割が被雇用者という状況の中、事業所の皆さんの消防団活動へのより一層の理解と協力が必要です。

消防団協力事業所として認定されると地域への社会貢献として広く認められ、事業所の信頼性の向上、イメージアップが図られます。

消防団の活性化、地域防災体制の強化のために、事業所の皆さんの協力をお願いします。

《3つの事業所が認定されました》

6月28日、右記の3つの事業所が消防団協力事業所に認定されました。交付を受けた事業所の代表者は、「緊急時はもちろん、今後さらに事業所内の消防団員数を増やし地域貢献できれば」と意気込みを話してくれました。



○藤光電気工事(埼玉)
○JAなすの塩那営農経済センター(太夫塚3丁目)
○太田建設(那須野沢)

▶問い合わせ

本総務課

☎0287(62)7150

那須水害の経験を生かし、
地域防災力の強化を図る



那須塩原市消防団長 大野勝弘 氏

災害に強いまち

を目指して

行政の重要な役目は、日ごろからの防災、減災への取り組み。「公助には限界がある」と言われているように、災害が大規模、広範囲になればなるほど「公助の限界」は浮き彫りになると予想される。災害を対岸の火事と思わずに私たち一人ひとりが防災を意識し、準備しておく大切さについて考えたい。



総務課危機対策・放射能対策室 高根沢 寿夫 室長

や地域の人など389人が防災士となり、今後の活躍が期待されることです。

当時は、経験したことのない規模の災害で、経験や知識が乏しく避難所の運営に苦慮した記憶があります。登庁まで半日以上かかった職員もいましたし、私も市役所に泊まり、土のうもたくさん作りました。災害の経験を生かし、市では「災害に強いまち」を目指して、自主防災組織の結成推進、避難所の整備、防災士の育成などを行っています。この防災士養成事業により、市職員

しかし、先日起きた「西日本豪雨」では119番通報したが「救助に行けるのは10時間後です」と言われた」と話題になったように、至るところで同時多発的な被害が発生する災害の場合、市役所、消防、警察の活動にはどうしても限界があります。よく耳にする言葉ですが、災害はいつでもどこで起きるか分かりません。本市は水害のほか、土砂災害や火山災害も想定されますし、旅先で被災した場合は、都会で、海で、それぞれに対応した知識が必要となります。市民の皆さんも明日はわが身として意識し、自分を、家族を、地域を守るため、防災に関する知識と災害に対する準備をお願いします。

日頃の備え

災害発生直後は、市役所や消防、警察などの公的機関による救助が十分に機能しないことがあるため、自分の身は自分で守ることを意識し、各家庭でも万が一に備えましょう。

これだけは
備えておきましょう



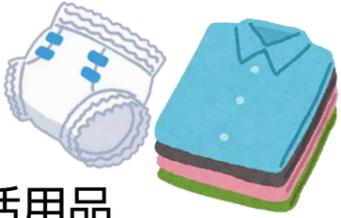
応急医薬品

ばんそうこう、包帯、消毒液など。避難するときなどにけがをした場合、すぐ手当てができるよう、応急医薬品を備蓄しましょう。



非常食

調理不要な缶詰やレトルト食品、飲料水など。飲料水は大人1人で1日に3ℓ必要です。非常食は、3日分程度備蓄しておきましょう。



生活用品

衣類、毛布、生理用品、紙おむつなど。避難所では下着や衣類が不足しがちです。また、支援物資なども配布しますが生理用品を受け取りづらいなどの意見をよく聞きます。

その他

ラジオ、懐中電灯、軍手など。ラジオは電波によって情報を発信するため災害に強く、情報を手に入れるために重要です。



CHECK!

もしもの時を想定し、
災害に備えよう！

①家の中の危険な場所、安全な場所を確認しておこう！

避難が遅れ、避難所へ避難できないときは、家の中の比較的安全な場所、例えば、大雨のときは2階の部屋や崖から遠い部屋などに避難することが大切です。

②家族同士の安否確認方法を決めておこう！

別々の場所にいるとき災害が発生した場合でもお互いの安否が確認できるよう、安否確認の方法や集合場所などを、日ごろから話し合っておきましょう。

災害時には携帯電話の回線がつながりにくくなり、連絡が取れない場合もあります。その際は、災害用伝言ダイヤル(171)や、災害用伝言板を利用して安否確認をしましょう。



那須塩原市メール配信サービス みるメールの登録を！

防犯・災害情報や生活に関する地域情報などを迅速かつタイムリーに届ける「みるメール」。近年の大雨による水害や地震など生命を脅かす災害に対応するため、最上位カテゴリに「命を守る情報」を新設しました。「命を守る情報」では災害時の避難勧告・指示や、避難所の開設状況などがリアルタイムで送信されます。いざというとき、あなたの身を守るのはこのメールかもしれません。



携帯電話ページ用

▶問い合わせ
☎シティプロモーション課 ☎0287(62)7529

災害に強いまちを目指して 総合防災訓練を行います

市全体で防災意識を高め、市民、防災関係機関と市が、それぞれの役割分担や行動内容などを確認することに重点を置き、那須水害と同規模の大雨による災害想定をして各種訓練を実施します(見学可)。

▶とき 8月26日(日) 午前10時～午後0時30分
▶ところ 那珂川河畔運動公園

《追悼式を行います》

那須水害から20年が経過し、改めて哀悼の意を表し、さらなる防災意識の高揚を図るため追悼式を行います。

▶とき 8月26日(日) 午前9時～9時30分
▶ところ 那珂川河畔公園 石のステージ

▶問い合わせ ☎総務課 ☎0287(62)7150



近年の主な災害

東日本大震災

(平成23年3月11日)

マグニチュード9.0、震源域も広範囲にわたった「東北地方太平洋沖地震」は観測史上最大規模の地震であった。この地震により、東北地方沿岸を中心に大津波が発生。壊滅的な被害を受けたほか、大量の放射性物質の漏えいを伴う大規模な原子力事故が発生し、広範囲で深刻な放射能汚染を引き起こすなど、未曾有の大災害となった。本市でも最大震度6弱を観測。負傷者5人の人的被害、全壊24棟をはじめとする1600棟を超える家屋などに被害が生じた。また、原発事故により拡散された放射性物質の被害は、除染作業が必要となっただけでなく、風評被害による観光客の減少、林産物の出荷制限など大きな影響を受けた。



物品が散乱した寺子小学校

平成26年豪雪(平成26年2月15日)

発達した低気圧による大雪、暴風雪により関東甲信、東北、北海道に被害をもたらした豪雪。



大雪により倒壊した農業用施設

平成27年9月関東・東北豪雨 (平成27年9月9日～11日)

栃木県全域に大雨特別警報が発令されるなど、関東北部や東北部を中心とした記録的な大雨。本市では特に塩原地区において大雨となり、ダムからの放水も重なって、川の水位が上昇し、塩原・箒根地区全域に避難勧告を発令。最大で81人が避難所に避難した。この大雨で、土石流や地滑り、土砂崩れなどの土砂災害が発生したほか、住家の半壊や浸水被害、断水や停電が発生し、市民生活にも大きな影響を与えた。



土砂崩れにより樹木が道をふさぐ塩原地区の様子

3 西那須野外循環線・内循環線は「通し運賃」で利用が可能に

「西那須野外循環線」と「西那須野内循環線」はこれまでは乗り継ぎが必要だったため、運賃もそれぞれへの支払いが必要でした。今回の路線再編によって、内循環線と外循環線の連続運行を行うため、乗り継ぎが不要となり、通し運賃で利用できます。

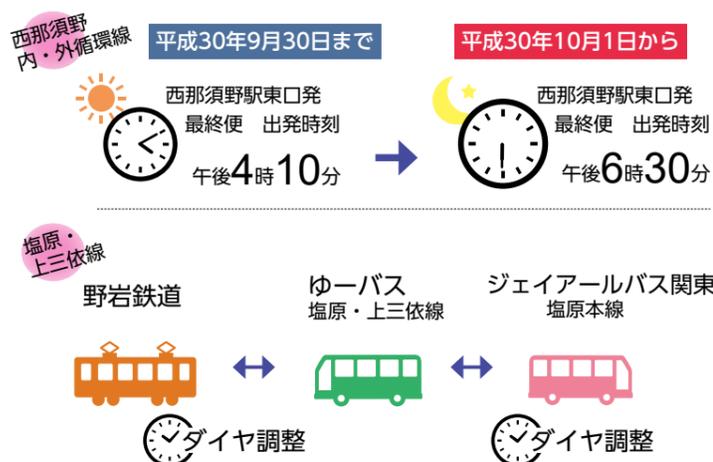
4 西那須野外循環線の特定の区間がフリー乗降できるようになります

西那須野外循環線の「一区町公民館入口」～西小学校経由～「北赤田公民館前」の間がフリー乗降区間になります。この区間では、バス停ではない場所でも手を挙げればバスに乗車でき、安全な場所であれば希望の場所に降りることができます。

5 移動ニーズに合わせてダイヤを見直します

需要の高い通学・帰宅時間帯に合わせて、「西那須野外循環線」と「西那須野内循環線」の夕方の運行ダイヤを拡大します。

また、「塩原・上三依線」は、観光客の利用状況を見ながら野岩鉄道と接続を目指し、合わせてジェイアールバス関東塩原本線へのさらなるアクセス向上ができるようダイヤを調整します。



6 ゆーバスの路線の一部をゆータクに再編します

ゆーバス「黒磯外回り線」として運行していた「県営住宅前」から「豊浦中町」まで一部の停留所が、ゆータク※「高林・青木線」に編入されます。また、それ以外の区間の黒磯外回り線と黒磯内回り線を統合し、新路線「黒磯線」として運行します。

得 乗り継ぐなら、断然お得な1日乗車券

西那須野駅から黒磯駅間で那須塩原駅をまたぐ乗車など、バスを乗り継いでのお出かけなら、1日乗車券がおすすめ。大人は400円、小中学生なら200円なので、行きも帰りも利用するのであれば、1日乗車券が便利でお得です。ゆーバスとゆータク※を組み合わせ利用もOK。全ての路線を1日乗り放題なので、途中で下車しても大丈夫です。

1日券400円



バスの日イベント開催！
9月16日は
無料でゆーバスに乗れます

「ゆーバス」を知っていても、実際に使ったことがない人は多いはず。この機会にゆーバスに乗ってみませんか？

<対象路線一覧>
塩原・上三依線、西那須野外循環線、西那須野内循環線、黒磯・西那須野線、鍋掛線、黒磯内回り線、黒磯外回り線、黒磯南校線

※民間路線バスや予約ワゴンバスはイベント対象外です。

ゆーバスの運休日について

- ・1月1日～3日は運休します。
- ・塩原・上三依線の運休日はありません。

※時刻表は8月下旬に市ホームページに掲載予定です。また、9月下旬に各戸配布をする予定です。

▶問い合わせ 生活課 ☎0287(62)7127

10/1から

ゆーバスの路線を再編します

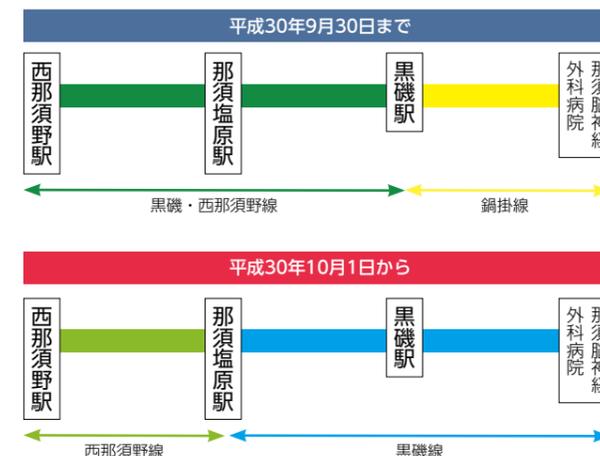


市では、公共交通を時代の変化に合わせて見直し、さらなる人の流れを生み、まちを活性化させるべく、平成30年3月に「市地域公共交通網形成計画」を策定しました。10月1日からこの計画に基づいて再編された新しい公共交通がスタートします。

1 黒磯・西那須野線は那須塩原駅を境に「黒磯線」と「西那須野線」に分割

現在の「黒磯・西那須野線」は、那須塩原駅を境に新路線「黒磯線」と「西那須野線」に分割されます。ただし、朝・夕の通勤通学時間帯などは、これまでどおり黒磯南高校への直通便を運行します。また、現在の「鍋掛線」を新路線「黒磯線」に再編し、沿線施設へのアクセス向上を図ります。

※西那須野線の黒磯線乗入の便(黒磯駅及び黒磯南高校直通)で、那須塩原駅をまたぐ利用は400円になります。

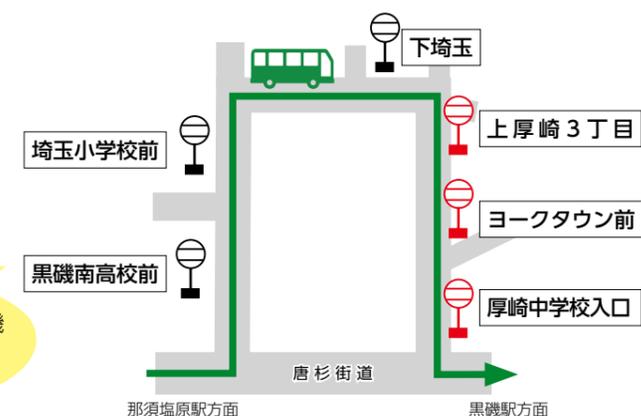


2 黒磯南高校付近の路線を一部変更し、新しい停留所を設置します

新設される商業施設付近に停留所を設置するなど、利便性を向上させます。新たに設けられる停留所は、次の3箇所です。

- ・上厚崎3丁目
- ・ヨークタウン前
- ・厚崎中学校入口

黒磯線・西那須野線は黒磯南高校前に全便停車します



予約ワゴンバスから「ゆータク」へ、ここが変わります！

- 1 車両は「セダン型タクシー車両」を使用します
- 2 予約の締切時間を始発のりば発車時刻の「1時間前まで」に繰り下げします（新湯線を除く）
※新湯線は始発のりば発車時刻の2時間前までです。また、朝9時以前の便を利用する場合は前日までに予約してください。
- 3 のりばから乗車し、降車は運行経路上であればどこでも可能です
- 4 予約ワゴンバスののりばに加え、新しくのりばを増やします
※増設するのりばの案内板は道路の片側に設置します。進行方向の左側でお待ちください。
- 5 予約がないのりばは飛ばして運行します
- 6 複数ののりばごとに1つの集合時刻が決まっています

予約と利用の流れ 予約受付時間：午前8時～午後6時（1月1日～3日を除く）

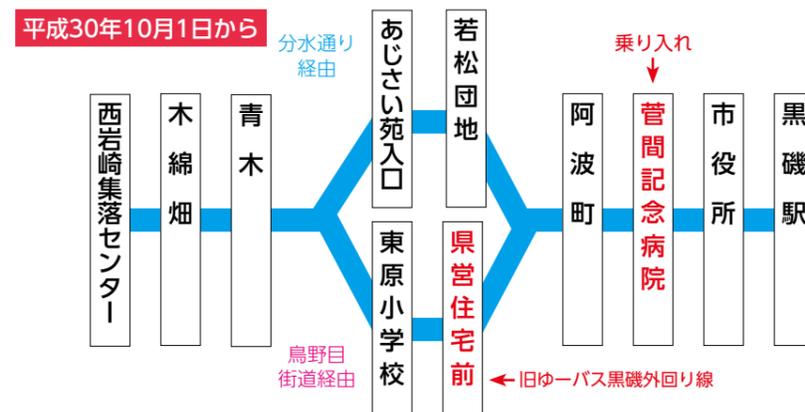
- 1 利用する路線の運行事業者に電話をし、「ゆータク利用」を伝えます。
※予約受付時間は乗車日の1週間前から当日始発のりば発車時刻の1時間前まで（新湯線は2時間前まで）となります。午前9時以前の便は前日までに予約してください。
- 2 名前、電話番号、住所を伝えます。（※緊急時の連絡のため。）
- 3 利用希望日、利用する便（時間）、利用人数、のりば名、降りる場所の最寄りののりばを伝えます。
- 4 利用日当日、集合時刻までに乗車できるよう、のりばでお待ちください。
※予約状況や道路の混雑状況によっては、ゆータクの到着が遅れる場合があります。
- 5 到着したゆータクに乗車すると、目的地まで運行します。
※他に予約があった場合は、別ののりばを経由します。
- 6 目的地に到着しましたら、料金を運転手に支払い、降車してください。
※料金は大人200円、小・中学生は100円です。（1日乗車券は車内で購入できます）

運行事業者一覧 運行日：毎日（1月1日～3日を除く）

路線名	事業者名	所在地	予約先
新湯線	那須合同自動車株式会社	本町2-6	0120-150-237 FAX 36-8185
下大貫線	塩原自動車株式会社	永田町3-6	0120-150-237 FAX 36-8185
接骨木線			
高林・青木線	黒磯観光タクシー株式会社	本町5-7	0287-62-1526 FAX 63-0388
宇都野線	山和タクシー有限公司	（緑営業所）緑2丁目1155-5	0287-29-3838 FAX 29-1148
湯宮線	藤交通株式会社	橋本町2-21	0287-63-0444 FAX 63-0443
寺子線	有限会社京橋	錦町11-4	0287-63-1515 FAX 63-8585

高林・青木線は経路が一部変わります

ゆーバス「黒磯外回り線」として運行していた「県営住宅前」～「豊浦中町」は、ゆータク「高林・青木線」になります。また、「菅間記念病院」に乗り入れするため利便性が高まります。



予約ワゴンバスに代わる



新たな交通「ゆータク」がスタートします

10.1
デビュー

「ゆータク」は予約があった場合に決まった時間、決まった経路を運行する乗合交通です。予約ワゴンバスと同じように、利用者から予約があった場合のみ運行し、予約がない場合は運行しない形態をとります。予約がないのりばは停車せずに目的地まで行くことができます。さらに、運行経路上であればのりば以外でも降車することができます。

ゆータクのイメージ

従来の予約ワゴンバス

利用者がいなくても決まったルートを実行する



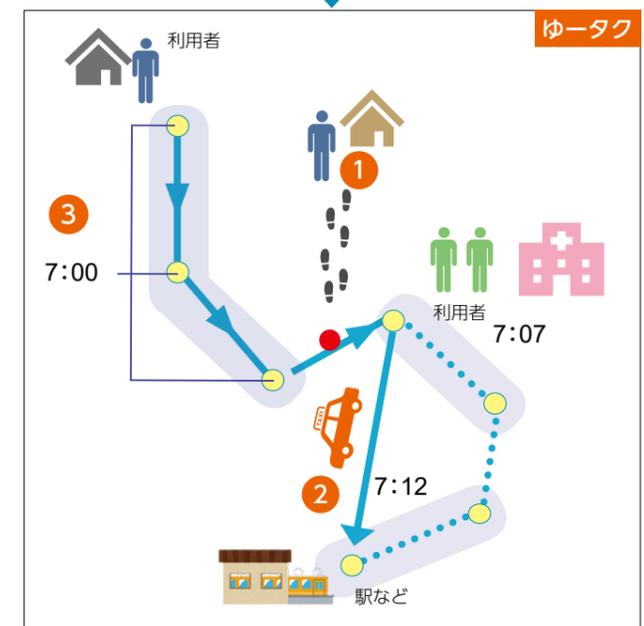
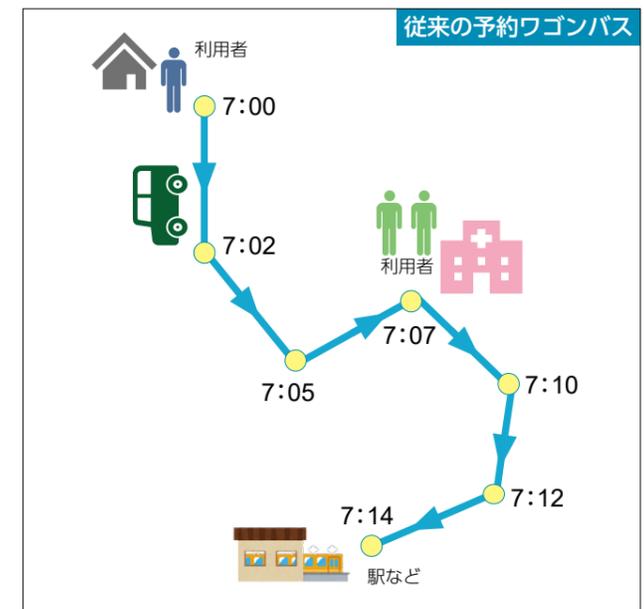
ゆータク

主に下の3つのポイントを変更

- 1 経路上なら途中下車可
安全に降りられる場所であれば、ゆータクの運行経路上のどこでも下車することができ、利便性が向上します。
- 2 効率的な運行
予約がないのりばは飛ばし目的地まで運行ができるため、効率よく運行します
- 3 複数ののりばに1つの集合時刻
いくつかののりばを1つのセットにしたダイヤに変更します。予約状況により遅れる場合がありますが、必ず集合時刻よりも前にのりばでお待ちください。

利用の際の注意点

- ・運行事業者から伝えられた集合時刻よりも前にのりばに来てください。
- ・タクシーとは異なり、「自宅から目的地まで」「何時に目的地に着くように」などの依頼は受けることができません。
- ・キャンセルをする場合には、必ず運行事業者に電話をしてください。また、変更する場合にはできるだけ早く運行事業者に連絡してください。



～新庁舎建設基本計画の策定に向けた検討を進めています～

市の最上位計画である第2次総合計画(前期基本計画)において、特に力を入れて推進する重点プロジェクトの1つである新庁舎建設事業。今回は、平成27年3月に策定した「新庁舎建設基本構想」の概要と現時点で想定している新庁舎の整備時期についてお知らせします。

これまでの主な経過

新庁舎建設については、合併協定項目に基づき、さまざまな角度から検討、調査などを進めてきました。平成27年3月に有識者や市内団体の代表者、公募市民などで構成する庁舎建設市民検討懇談会や市議会の庁舎建設検討特別委員会の意見、市民アンケートの結果、市議会からの提言事項を踏まえた基本構想を策定しました。

その後、引き続き検討を重ねてきましたが、東京オリンピックなどの影響により建築費や労務単価の高騰が伝えられました。また、合併特例債の発行可能期間も平成36年度まで延長されたため、新庁舎の建設時期を東京オリンピック以降に延期することが適当と判断しました。

新庁舎建設は、総合計画で定めた将来像の具現化や県北の中心都市にふさわしい拠点づくりを推進するために、特に力を入れて取り組む必要があります。そのため、総合計画の重点プロジェクトに位置付け、今年度から本格的な検討を再開しました。現在は、懇談会などの意見を聞きながら、基本計画の策定に向けた検討を進めています。

基本構想では既存本庁舎の課題を8つの項目に整理

既存本庁舎の課題

基本構想では、既存本庁舎の課題を8つの項目に整理しました。とりわけ①狭さの問題が、行政機能の分散化や市民スペースの不足を招く要因となり、市民の利便性や市民サービスの低下にもつながっています。

1 庁舎の狭さ

市民ニーズの多様化やそれに伴う事務量の増加などにより、窓口の狭あい化が進み、待合スペースや執務スペース、相談室などのスペースを確保することが困難な状況です。

2 構造的な問題

正面玄関から全体が見渡せず、どの課に行けばいいのかが分かりにくいいため、総合窓口案内を設置しています。しかし、将来に向けて抜本的に構造を見直す必要があります。

3 行政機能の分散

既存本庁舎が狭いため、子ども未来部、教育部、上下水道部などを西那須野庁舎に配置しており、本庁機能の窓口が分散しています。

そのため、市民の利便性と行政効率の低下を招いています。

4 防災上の問題

非常用電源の整備が十分でないなど、危機管理機能を備えた防災拠点としての役割を果たすことが難しい状況にあります。

5 バリアフリー化の限界

建設当時、高齢者や障害者などに配慮した設計思想が希薄だったこともあり、バリアフリーへの対応が十分ではありません。

6 施設の老朽化

築30年以上が経過し、空調設備、電気設備、給排水設備などの老朽化が進行しています。これに伴う維持管理費の増加が懸念されることから、抜本的に維持管理費の軽減を図る必要があります。

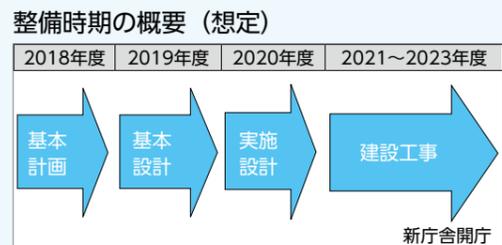
7 市民スペースの不足

市民が交流するスペースがほとんどありません。市民活動の情報などを発信できるスペースが求められます。

8 既存本庁舎の位置の問題

分りにくい場所に位置している上に、交通機関の集まる駅周辺に立地していないことから、自家用車などの移動手段がない人に不便をきたしています。

整備時期(想定)



※2015年度に基本構想を策定済。
※スケジュールは、事業の発注手法などに伴い、変更になる場合もあります。

新庁舎に求められる機能

1 親しみやすく便利

子育て中の市民や高齢者、障害者にも使いやすいスペースを確保したバリアフリー設計

2 災害に備えた防災拠点

・ 地域公共交通の便が良い など
・ 災害時の避難者受け入れが可能で十分な備蓄がある など

3 まちづくりの拠点

・ 周辺にさまざまな施設を誘導する
・ 市民交流スペースがある

新庁舎の必要性

構造的な問題や防災上の問題の解決などは、増改築では限界があり、既存本庁舎の課題を解決するためには、新庁舎の建設が不可欠な状況にあります。

そのため、新庁舎建設においては既存本庁舎の課題を踏まえ、コスト抑制はもとより次の3つを柱として検討します。

1 利便性の更なる向上

2 防災機能の強化

3 まちづくりの更なる推進

新庁舎の整備位置

基本構想で定めた那須塩原市前弥六南町7番12周辺の概ね30,000㎡の土地を新庁舎建設用地として用地の取得も含めた検討を進めています。



新庁舎建設に関する情報をお伝えしていきます

現在、庁舎建設市民検討懇談会を開催し、新庁舎建設に向けた検討を進めています。懇談会の開催日や検討内容などは、市ホームページや広報なすしおばらでお知らせしていきます。



▶ 問い合わせ
企画政策課 ☎0287(62)9254



限界へ挑む 鉄人レース ～関東学生トライアスロン～

6月24日、今年で21回目となる関東学生トライアスロン選手権が戸田調整池で開催されました。2022年の栃木国体において本市での開催が内定しているトライアスロン。本市ともゆかりの深いこの競技に地元の人たちも熱い声援を送っていました。1.5kmのスイムの後に待つ自転車レースでは、落車で痛々しい傷を負った選手も。過酷なレースを完走した選手たちは達成感に満ちていました。



1 スイム後は休む間もなくバイクのスタート地点へ 2 30度を超えたこの日は給水所が重要箇所 3 地元の皆さんにより巻狩鍋が振る舞われた 4 チームメイトに最後のエールを送る 5 優勝を決めた感動のゴール



農業の将来に夢と希望を ～農業委員会意見交換会～

将来の農業を担う人材の育成や、農業に対する幅広い意見を集約することを目的とした市農業委員会と那須拓陽高校の生徒7人による意見交換会が7月12日に那須拓陽高校で行われました。

生徒それぞれが持つ「農業の将来」に向けた不安や希望に対して、経験豊富な農業委員が的確にアドバイス。活発な意見交換会終了後の生徒の表情は、頭の中のモヤモヤがすっきりしたのか希望に満ち溢れ、イキイキとしていました。



今後もおもてなしの充実を誓って ～栃木DCグランドフィナーレ～

4月から6月、本県では19年ぶりとなったJRグループの大型観光企画「栃木デスティネーションキャンペーン(栃木DC)」のそのフィナーレを飾るイベントが6月30日、那須塩原駅前で開催され、多くの家族連れや観光関係者で賑わいました。

来年も同じく4～6月にかけて、アフターDCが展開されます。引き続き首都圏からの観光誘客に向けて、地域が一体となり取り組んでいく決意を感じさせる締めくくりとなりました。



02 那須野農業協同組合と包括連携協定を締結しました

市と那須野農業協同組合が、地方創生の推進や地域社会経済の継続的発展を目的とし、お互いの知恵と情報、人材、技術を活用してさまざまな分野で連携・協力していくための包括連携協定を結びました。

今後、農畜産物のさらなるブランド化や農業担い手の育成、観光振興、移住定住促進など、広範囲の連携した取り組みを進めていきます。

▼問い合わせ
☎企画政策課 ☎0287(62)7106



01 子育て中のあなたに贈る一冊 「子育て情報マップ」配布

忙しい子育て世代のために、地域おこし協力隊の沼崎隊員と市内在住の17人のママが一緒に作った「子育て情報マップ」。子連れでも気兼ねなく行ける店舗情報などを掲載しています。希望者には次の場所で配布します。

▼配布場所 ☎シティプロモーション課、移住促進センター、☎子育て支援課、菅根出張所

※配布は一人一冊です。

▼問い合わせ ☎シティプロモーション課 ☎0287(62)7128



03 まちなか交流センターと(仮称)駅前図書館の愛称が決定

現在黒磯駅前に建設中の「まちなか交流センター」と「(仮称)駅前図書館」の愛称が決まりました。

- ・交流センター…「みるる」
- ・図書館…「みるる」

※全国から376件の応募があり、市内在住の大野結花さんが最優秀賞に選ばれ、その授賞式が7月24日に行われました。

▼問い合わせ
☎商工観光課 ☎0287(62)7154



04 日本遺産を活用していくために 「日本遺産活用推進協議会」を設立

5月に日本遺産として認定された、那須野が原開拓ストーリー「明治貴族が描いた未来」が那須野が原開拓浪漫譚。これを地域・観光振興に活用していくための推進協議会が設立され、6月20日に市役所本庁舎で設立総会が開催されました。会議には共同で日本遺産申請をした4市町の首長をはじめ関係者が出席。既存の観光地と平野部との回遊性を高め魅力向上を図るなどの方針を確認しました。

▼問い合わせ
☎生涯学習課 ☎0287(37)5419



**地域の先生たちの手つきに真剣な眼差し
～三島小クラブ活動(地域学校協働本部)～**

茶道の先生や囲碁の名人、ボーイスカウトのリーダーなど、地域にいるさまざまなスペシャリストたちが指導している三島小学校のクラブ活動。今年から本格始動する地域学校協働本部の一環で、地域と学校が互いに協力しながら、子どもたちを育てていこうとするものです。第4回目の活動となる7月12日のクラブ活動には、小学4～6年生の333人が参加。子どもたちは普段できない体験を楽しそうに、そして真剣に取り組んでいました。



1冷茶をたてる文化クラブ。お点前はいかが 2次の一手はどこにしよう(囲碁将棋クラブ) 3テントの組み立てに夢中(自然体験クラブ) 4先生の手つきをお手本に(手芸クラブ) 5竹ぼうきってこうやって作るんだ(工作クラブ) 6地域の先生たちもとても楽しそう



**暑さに負けず 早く大きく育てね
～南小ゴーヤ緑のカーテンづくり～**

6月25日に南地区コミュニティでゴーヤの苗植えが行われました。この取り組みはゴーヤのカーテンを作り、子どもたちに環境への意識を高めてもらおうというもの。梅雨の中休みで30℃を超える暑さとなったこの日は、6年生68人が1人1株ずつ丁寧に花壇に植えていました。武石紗妃さんは「3つ上のお兄ちゃんの頃から続く苗植えを自分もできて嬉しかった。早く食べてみたい」と話してくれました。



**42キロを歩き抜け!
～Walk Walk 強歩 in 日新～**

日新中学校区で毎年行われている強歩「Walk Walk 強歩 in 日新」が6月17日、日新中学校を発着地点として開催されました。20回目となる今回も、同校の生徒たちのほか、校区内の小学校の児童や地域の人たちなど約1,100人が参加。最長42.195kmの道のりを10時間近くかけて歩き抜けました。ゴールが視界に入ると、子どもたちは疲れを感じさせない勢いで走り出し、ゴールに飛び込んでいきました。

9月3日
受付開始

幼稚園・認定こども園

平成31年度 園児募集

問い合わせ
園保育課 ☎0287(46)5536

各幼稚園・認定こども園において、満3歳以上で、幼稚園などでの教育のみを必要とする子ども(1号認定)を対象にした新入園児の募集が始まります。

必要書類 入園申込書 書類の配布場所・申込場所 各幼稚園、各認定こども園

※幼稚園、認定こども園(1号認定のみ)の入園申し込みは各園で行います。事前見学や説明会についても、各園に直接問い合わせてください。



知っておこう!
幼稚園と認定こども園の違い

幼稚園
就学前教育を行うことを目的として、集団生活の中で基本的な生活習慣や態度、豊かな心情や思考力、意欲や思いやりなどを養います。

認定こども園
幼稚園の機能と家庭で保育のできない保護者に代わって保育を行う保育園の機能を併せ持ちます。

知っておこう!
認定区分の違い 認定区分に応じて、利用できる施設が異なります

利用先の希望や年齢によって3種類の認定があります。今回の募集は1号認定で入園を希望する場合のみ対象です。保育園(2号認定または3号認定)の申し込みは10月に開始となり、募集案内は9月5日号に掲載します。



認定区分	対象	利用できる施設
1号認定	満3歳以上で、幼稚園などでの教育のみを必要とする子ども	幼稚園、認定こども園
2号認定	満3歳以上で、保育園などでの保育を必要とする子ども	保育園、認定こども園
3号認定	満3歳未満で、保育園などでの保育を必要とする子ども	保育園、認定こども園、地域型保育施設

★申し込み・問い合わせ

施設種類	地区名	施設名	所在地	☎0287
幼稚園	西那須野	すぎのこ三島幼稚園	東三島2-87	(36)4841
		虹ヶ丘認定こども園	黒磯6-38	(62)1393
認定こども園	黒磯	認定あけぼのこども園	上厚崎523-3	(62)1226
		認定こども園マロニエ幼稚園	埼玉8-478	(62)2760
		黒磯いずみ幼稚園認定こども園	島方451-33	(65)0840
		認定こども園黒磯幼稚園	住吉町2-8	(62)0661
	西那須野	西那須野幼稚園 ※平成31年度以降、認定こども園に移行する予定です。	西大和6-15	(36)0440
		すぎのこ幼稚園認定こども園	扇町3-30	(36)0460
		認定こども園第二ひかり幼稚園	緑1-8	(36)5311
塩原	塩原認定こども園	塩原652-1	(32)2360	

※認定こども園の申し込みをする場合は、提出する人のマイナンバーを確認できるもの(通知カードやマイナンバーカードなど)と本人確認ができるもの(運転免許証など)を持参してください。



お便りBOX

皆さんからいただいたお便りを紹介します。
今後の広報誌づくりの参考にさせていただきます。

◆那須野が原が日本遺産に認定されたとの件、素晴らしいことでも嬉しく思いました。私たちの住むまちには、すごい歴史があり万々歳です。よかったです。よかったです。不毛の地を開拓してください。偉い人に感謝です。
T・Iさん(西新町)70代女性

◆広報なすしおばらが届くのを楽しみにしています。表紙が楽しみです。健康だよりも…。なかなか図書館には行けないですが、図書館へ行くことをみると、おつかいの後で帰りに寄ったりしています。珍百景も楽しいです。



スマートフォンなどからの応募はこちら

Q. あなたが好きなコーナーはどれですか？(複数可)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 表紙 | 2. 特集 |
| 3. 行政 info | 4. タウンピックアップ |
| 5. 子育て連絡帳 | 6. チャイルドピックアップ |
| 7. 健康だより | 8. 図書館へ行こう！ |
| 9. お便りBOX | 10. なすしおばら珍百景 |
| 11. ちっちゃな自然 | 12. 編集後記 |
| 13. げんきびと | 14. ものづくり若人 |
| 15. 私のまちの近い遺産 | |

広報なすしおばらを読んだ感想、取り上げて欲しい話題や記事などをお書きください。

.....

※いただいたご意見は、内容を変えない範囲で添削させていただく場合があります。
※紙面の都合上、掲載できない場合がありますのであらかじめご了承ください。

募集中

お便りBOX



皆さんの声を紙面で紹介します

皆さんからいただいたお便りを紙面で紹介していきます。広報なすしおばらを読んだ感想、取り上げて欲しい話題などを投稿してください。
※応募ははがきかQRコードから。

なすしおばら 珍百景

あなたの"珍"がまちの魅力に？

あなたの身の回りの"珍"な光景、出来事、思い出などの写真を募集します。その1枚が新たな魅力の発見につながるかも。
※応募は次ページのQRコードを参照してください。

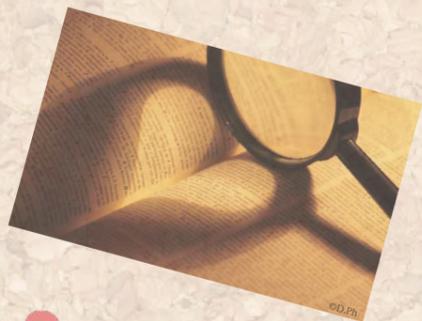
その他にも、たくさんのお便りをいただきました。ありがとうございました。

図書館 HP



図書館へ行こう！

図書館は、お盆期間中も開館しています(13日月のみ西那須野図書館が休館)。気軽に利用してください。



NEW!

知られざる地下街



『知られざる地下街 歴史・魅力・防災、ちかあるきのススメ』

著：廣井 悠、地下街減災研究会 河出書房新社
〈地下街〉の奥深さを、主に防災の観点から紹介。その歴史や魅力はもちろん、技術や災害時のリスク、万一災害に遭遇してしまった時に役立つ情報の他、「全国地下街案内」も掲載。

〈ちか〉はやっぱり深かった！



『0歳児とのあそびかた大全』

監修：汐見稔幸 大泉書店
0歳児をさらにねんね、くびすわり、ねがえり、おすわり、はいはい、つかまり立ちなど、6つの発達段階に分けて、あそびのポイントをふまえた上でそれぞれ紹介していきます。

0歳児の"ツボ"教えます。



『おいしい彩り野菜のつくりかた』

編：農山漁村文化協会 監修：藤田幸廣 農山漁村文化協会
野菜を赤・オレンジ・黄・緑・紫・黒・白の七色に分け、栽培や収穫など野菜作りからその特徴・機能性成分、食べる時の注意や下ごしらえのコツ、体によい食べ方などを紹介。

彩り野菜で畑と食卓を楽しんでみませんか？



『とつともなまえのおおいネコ』

作：ケイティ・ハーネット 訳：松川真弓 評論社
はなさきどおりのネコはいつも大忙し。行く先々で違う名前と呼ばれ、みんなから愛されていましたが、ある日とても静かで誰も訪れる気配のない11ばんちの家を訪ねて行き…。

1匹のネコが人々をつなぐ



『にゅうしちゃん』

さく・え：minchi 岩崎書店
小さなおーちゃんは、初めてのおともだち"にゅうしちゃん"のおかげで、ミルクだけでなくごはんやおかしも食べられるようになりました。しかし、別れは突然やってきて…。

にゅうしちゃんと仲よくしよう！



『ぶどう畑で見る夢は ころみ学園の子どもたち』

著：小手鞠るい 原書房
足利市にある、支援施設ころみ学園。そこに入所している子どもたちの春夏秋冬が、1本のぶどうの木の視点で描かれている作品です。

ころみ学園の子どもたちの1年を追う

イベント情報

「マルチメディアデイズ」で昔話を体験しませんか

「マルチメディアデイズ」は、印刷物を読むことが困難な人のために開発された電子図書で、音声と一緒に文字や絵が表示されます。

とき(8月)	ところ
17日(金) 午前10時～午後2時	ハロープラザ
18日(土) ※この時間帯で、いつでも誰でも体験できます。	黒磯図書館
19日(日)	西那須野図書館

▶定員 なし(申込不要) ▶参加費 無料 ▶協力 アイ・サポート那須
▶問い合わせ 市社会福祉協議会ボランティアセンター ☎(73)0073

塩原図書館 おはなし会と工作会 「おりのみのおすし」を作ろう！

おはなし会の後に工作会を行います。ハサミを使った作業はないので、小さな子どもでも安心して参加できます。

- ▶とき 8月18日(土) 午前10時30分～11時30分
- ▶ところ 塩原図書館
- ▶対象 小学生以下の子ども
- ▶定員 なし(申込不要)
- ▶参加費 無料



▶問い合わせ 西那須野図書館 ☎(36)6001 黒磯図書館 ☎(63)9031 塩原図書館 ☎(48)7521

ちっちゃな自然
みつけた

NO. 160

自然を愛そう那須塩原

さわやかな尾根歩き
～大峠のウスユキソウ～



ウスユキソウ 撮影時期:2015.8.5 撮影場所:大峠

ウスユキソウって？

キク科ウスユキソウ属
Leontopodium japonicum
ヨーロッパのエーデルワイスの仲間
で、花の外側の包葉が白く、雪が積もっ
たように見えることからこの名がつい
た。



ながれいしやま
流石山から見た大峠山の頂上

8月になりました。野菜を作っている私は、酷暑にならないといいなとか、台風があまり来ないといいなとか願っています。さて、今回紹介するのは、大峠から流石山と大倉山までの気持ちの良い尾根歩きと、そこに咲くウスユキソウです。

大峠までは、福島県側から行くとなると、白河方面から甲子を通り、観音沼を過ぎ、山道をずっと走っていくと、駐車場があります。駐車場からは1時間弱で大峠に着きます。(途中の道路が崩壊し、通れないという残念なニュースが入ってきました。仕方がないので今年からは南側から入り、三本鎗岳を経由して行ってきました。復旧を心待ちにしています)

ウスユキソウは、キク科ウスユキソウ属の多年草で、仲間が9種類ほどあります。高山に咲き、頭花の下の星形の葉包葉の白い綿毛が、降り積もった雪のようなのでその名がつけました。ヨーロッパでは歌で有名なエーデルワイスと呼ばれています。ウスユキソウは、草丈が15～50cm。日本中に分布していますが、那須では大峠付近と南月山付近にしか見られません。また、他のウスユキソウの仲間には見られません。頭花は中央のやや黄色い部分で、頭花にはつきりした柄があります。秋が近づくと、頭花が茶色くなっていきます。

本市では、準絶滅危惧種に指定されています。生育の状態を注意深く見守っていきたいと思います。

おさむ

なすしおばら
珍百景

あなたの"珍"を募集中

＜応募方法＞

方法① きらきらホット
なすしおばらに投稿
珍百景投稿用フォームに
必要事項を入力。



方法② シティプロモーション課に電話
☎0287(62)7109

●必要事項

住所、氏名(ペンネーム)、電話番号、年齢、性別、珍百景写真、タイトル、撮影日、コメント(100字程度)

●注意点

※人権侵害、政治・宗教活動、意見広告や宣伝につながるものなど、掲載できない内容があります。
※内容を変えない範囲で添削する場合があります。
※被写体の人物または所有者などに許可を得てから応募してください。
※インターネットなどからの転載はご遠慮ください。
※応募いただいた写真は市の情報発信活動に使わせていただく場合があります。

つばめのお宿より



投稿者 セっちゃんさん(70代女性 高阿津)
撮影場所 高阿津(撮影日 H30.6)

つばめちゃんにも、丸首とVネックがありました。
さ～真ん中のつばめちゃんはどっちかな？

平成30年7月豪雨災害義援金を
受け付けています

西日本を中心とした豪雨災害により被災した人を支援するため、義援金を受け付けています。
※受け付けは現金のみ。
※受領書などは発行しません。

- ▶ところ 市役所本庁舎、西那須野庁舎、帯根出張所
- ※塩原庁舎は庁舎内の社会福祉協議会で受け付けています。
- ▶受付期限 9月28日(金)
- ▶問い合わせ
総務課 ☎0287(62)7150

編集後記

那須水害、皆さんは覚えていますか？アラサーの私は当時小学生でした。記憶にあるのは夏休みが長くなったこと、床下浸水に気付かず掘りごたつに足を入れたらひっこかったことなど、今思い返すと結構覚えているものですね。台風のシーズン&那須水害から20年ということもあり防災をテーマに特集記事を作っている最中、西日本豪雨のニュースが。市でも各庁舎で左記のとおり義援金を受け付けています。一人ひとりが自分なりに今できることをやること、これが復旧・復興につながって行くこと取材の中で教わりました。それはそうと、私の周りには那須水害を知らない人(経験していない)って結構いるんです。皆さんの周りはどうでしょうか？よく言えば移住者が増え、多くの若い人が活躍しているってことなんだろうけど、裏を返すとそれだけ私はおじさんになったということでもあるわけで・・・ちょっと泣けてきます。(高久)

行政情報アプリ「広報紙」が「マチイロ」としてリニューアル！

マチを好きになるアプリ

マチイロ

自治体がもっと身近になる機能が盛りだくさん！

- 1 役立つ行政情報を見逃さない！
- 2 自分に合わせた情報が届く！
- 3 いろいろなマチの魅力をお届け！

ダウンロードはこちらから

App Store からダウンロード

Google Play でダウンロード

※「広報紙」をご利用の場合、アップデートによって新アプリに切り替わりますので、新たにダウンロードする必要はありません。 ※アプリの使用は無料ですが、通信費は各回線ごとのご負担となります。 ※広告が表示されますが、各自治体とは何ら関係ありません。

マチイロに関する問い合わせは株式会社ホープ(092-716-1404)まで

3 2 5 8 5 0 1

お手数ですが
62円切手を
貼ってください

那須塩原市役所
シティプロモーション課
「広報なすしおばら係」行

ご住所

那須塩原市

※掲載する場合は実名ではなく、イニシャルまたはペンネームで掲載します。

フリガナ ペンネーム

お名前 (希望者のみ)

☎電話

年齢 歳 性別 男 ・ 女



↑ 千本松にある北端点
(千本松の観象台)
← 中から発掘された石室
※西那須野町郷土資料館紀要より。



南端点(大田原市)



南端点(大田原市)から千本松の北端点に向かってまっすぐのびている那須基線(たて道)

※出典:国土地理院ウェブサイト(<http://maps.gsi.go.jp>) 地理院地図を加工して使用。

「千本松の観象台」

～近代測量の基点と本州一長い(?)直線道路～

7月5日号の「日本遺産」特集はいかがだったでしょうか? 何となく知っている地域の歴史ですが、これをきっかけにもっと興味を持ってもらえれば幸いです。さて今回は、この「日本遺産」を構成する文化財のひとつ、見た目より意外とすごい「千本松の観象台」を紹介します。

私のまちの 近い 世界遺産

Topic

開拓地を見渡せる塚

一区町にある「親王台」と呼ばれる塚。たて道の近くにあるこの塚は、明治14年(1881)年に当時の親王(明治時代は天皇の子から孫の孫までの男子をさす)が那須野が原の開拓を訪れる際、開拓地をよく見渡せるようにと築られました。ひょっとしたらその頃は、親王台に登ると、どこまでも真っすぐに伸びる道を眺めることができたのかもしれない。

「日本遺産」ってなあに?

日本遺産(Japan Heritage)とは、文化財を始めとした地域の歴史的魅力や特色を地域活性化に活用しようという文化庁の事業です。本市・大田原市・那須町・矢板市の4市町で申請した明治期における那須野が原開拓の歴史が、日本遺産に認定されました。詳しくは、広報7月5日号をご覧ください。

日本遺産

検索

「千本松の観象台」は、農研機構・畜産研究部門(旧・畜産草地研究所)の正門脇にある、高さ1mにも満たない直径2mほどの小さな塚のこと。観象台とは本来、天体・気象などの観測や研究をする所を指しますが、この観象台は、近代国家を目指した明治政府が設置したもので、近代測量の基点になったと言われています。

日本における近代測量は、明治初期に外国人の指導により始められ、明治8年(1875)、関東地方全域を対象とした三角測量である「関八州大三角測量」が実施されました。当時の那須野が原は、平坦な原っぱで視界を遮るものがないことから、測量の基準を設ける最適の場所として選ばれました。

「千本松の観象台」は「北端点」と呼ばれており、これと対を成す観象台が大田原市にあります。こちらは「南端点」と呼ばれており、2点を結んだものが「那須基線」となり、三角測量の基準線となったのです。2点を結んだ距離は約10.63km。現在では「たて道」と呼ばれ、地域の皆さんの生活道路となっています。

観象台の中には、大谷石でできた一坪ほどの正方形の石室があり、中から測量用具と思われる金具が見つかっています。当時はこの石室の上に木造の檣が組まれ、距離を測る目印とされました。そのほか、発掘作業ではお皿の上に載った「魚の骨」も見つかっています。これは観象台を建設したときの神事による供物と思われる。